

U35 のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。

京都市基本計画審議会

レポーター 平岡 さつきさん



1980年生まれ兵庫県神戸市出身。学生時代より京都に居住。月刊情報誌『Leaf』の編集者となり、京都取材してまわる毎日。ビールと伏見をこよなく愛する

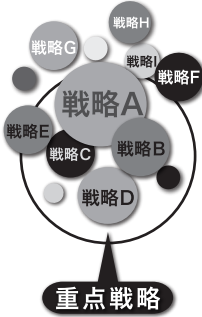
第6回うるおい部会

開催日：平成22年7月14日(水) 会場：消防庁舎 作戦室
主な議題：重点戦略案について・「市民生活とコミュニティー」、「市民生活の安全」、「文化」分野の基本計画第2次案の検討

POINT

1

重点戦略が多すぎる



「重点戦略が多すぎるが、減らしてもいいのか」という意見がありました。しかし「大枠はこれまでの議論を踏まえてきたものなので、この内容にいかにも思いを込めていくかを議論したい」とのことで減らせず、審議は急いで進められました。

会議のポイント

POINT

2

施策を具体的にしたい



「施策については、行政が何をすべきか、地域がどうなっていくことが望ましいか、そして地域を支える行政の役割、これらを分けて書かなければ指針とならない」という意見があり、同感だと思いました。

会議を傍聴して思ったこと

大学教授やお坊さん、弁護士やNPOの代表者などそうそうたる京都の識者が集まっておられるのですが、気になったのは、一般の会社員がひとりもないこと。未来を見通すには聡明な方の知恵はもちろん必要ですが、市政の対象となる一般市民とは、例えば私のような、明日明後日の生活を守ることで必死な中小企業の従業員が大部分なような気がしまして、そんな私が会議を傍聴しても、正直なところよくわかりませんでした。もし発言権があったとしても気の利いたアイデアは出せなかったかもしれませんが、現状のように仕上がった膨大な文言を眺める機会しか与えられないのでは、ますます理解が進まず、市政と市民はよりかき離してしまうのではないかと思います。

京都は大好きな街です。まちも文化も美しく、洗練されていて、誇り高くクールです。京都はこのまま変わらずいてほしい。へんに変わって欲しくない。本当に永く存続しつづけるために、まず財政の透明化・健全化をみんなで考えるべきなのではと私は思います。市政について書かれた資料を見ると、財政はかなり逼迫しているような印象があり、具体的には何年後に破綻してしまうのだろう、避けるためにはどうすればいいのだろうという漠然とした不安に包まれます。なので10年間の基本計画に加え、直近の数数年間に実施する施策の内容と採算分岐を記載した実施計画を策定し、それを市民に広報する機会をふんだんに作れば、市民が一層市政を信頼できるようになるのではないのでしょうか。

京都の未来に向けて
思いを馳せること

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

